

アメリカの時代が開けていくと、さらにクリンでシャープ、機能的でスマートなブラインドが仕事をすることがあった。

1930年代に相前後して完成したクライスラービルと写真にあるエンパイアステートビルは、ニューヨークを代表する超高層ビルであるだけでなく、上へ上へと伸びていくアメリカのアイコンそのものだった。それと同時に高層ビルは不燃のオフィスを求め、木製のデスクはスチールに変わり、窓にはブラインドがついた。水平の羽が並んだブラインドはその機能性とスマートなデザインで、世界をリードするアメリカのイメージづくりにふさわしいものとなった。
Photo/Mega Press

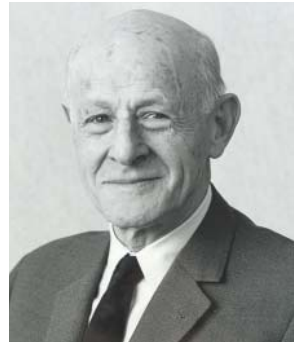


[ハンターダグラス物語] HUNTER DOUGLAS

グレートブランド物語

Great Brand Story

第16回：文と構成／河村喜代子



ハンターダグラスの礎を築いたヘンリー・ソネンバーグ。ブラインドがもつスピード感はアメリカの時代にぴったりだった。

ハンターダグラスは1946年にアメリカで、ヘンリー・ソネンバーグとジョー・ハンターという人物により窓にかけるブラインドを製造する会社として生まれている。ソネンバーグ自身はアメリカに移住して来る以前に、まずドイツのデュッセルドルフで1919年に製作機械の販売会社を経営し、その後オランダへ移転する。アメリカへは1940年に渡ってきた。年代を追うだけでもソネンバーグが第1次大戦から第2次大戦までの激動のヨーロッパとアメリカの両大陸で生きてきたことがわかる。

第2次大戦直後の住宅ブームを迎えたアメリカ

窓にかけるブラインドからシェードへと発展することによって、光をさえぎるだけの役割から空間の印象さえ操る力を備える。家庭とオフィスの空間は、光を活用すれば豊かに変わる。軽量なアルミニウムの羽を並べたベネシアンブラインドからスタートしたハンターダグラス。現在は素材の幅を広げて、光の演出力に優れた製品を生み出している。



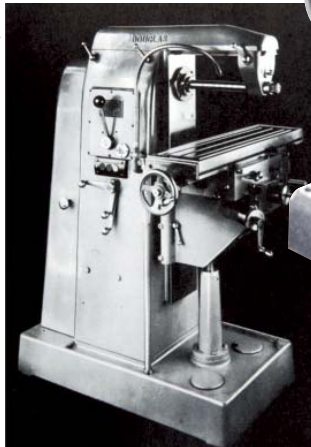
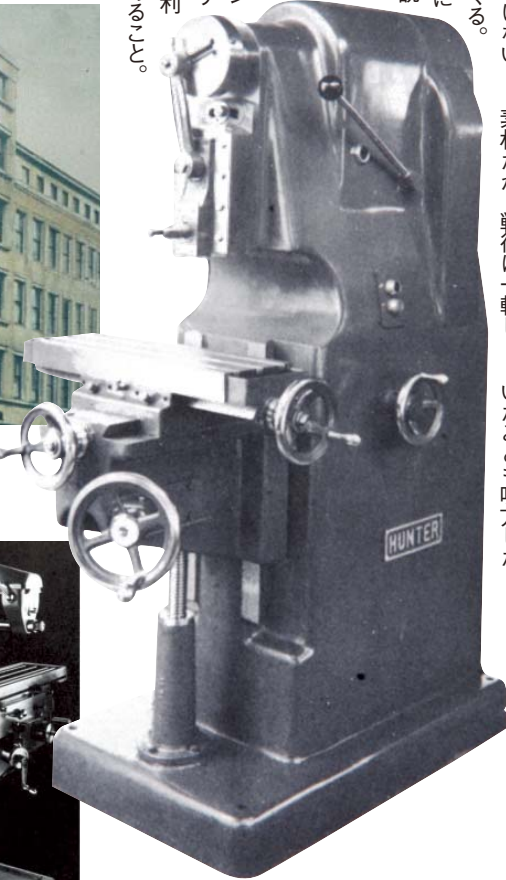
で、ハンターダグラスが製造したのはベネシアンブラインドだった。これはスラットあるいはルーバーと呼ばれる50mm幅の羽を縦に連ねたものであった。羽の角度を変えることで調光が簡単にできる。羽を完全に閉じてしまえば光をシャットアウトすることも可能だ。水の都と呼ばれるイタリアのベネチアが発祥の地とされてこの名で呼ばれる。

運河の町では、太陽の光は上からだけでなく水面に反射して思いがけない角度から入ってくる。それを遮るために生まれたという説がある。

戦時中は軍用機用に優先的に振り向けられていた素材だが、戦後は一転して建築物パネルや家具などへの利用が奨励されていたことも味方した。



ヘンリー・ソネンバーグは1919年にデュッセルドルフで工作機械の販社を興した。1929年にウォール街の株の暴落により1920年代の好況の時代は終わりを告げる。1930年代は世界中を大不況の暗雲が包み込む。そのさなかの1933年にソネンバーグはオランダのロッテルダムへと会社を移している。アメリカに渡ったのは1940年のことで、まずダグラス・マシーナリー社を興す。第2次大戦後の1946年にジョー・ハンターとともにハンターダグラスを興して独自開発したアルミニウムの一貫鋳造技術により軽量なブラインドを生み出す。現在、ハンターダグラスの本拠は、ふたたびオランダに置かれている。





シルエット・シェードの特徴は縦に流れる2枚の布のあいだに、挟みこむようにして羽を横に並べてある点である。この羽も布製だ。布を透過してくる光は柔らかく表情豊かなものとなる。しかも布でありながら、あいだに挟んである羽はブラインドがそうであったように角度調節ができる。そこでこの羽を閉じてしまえば外からの視線をシャットアウトしてプライバシーを守ることができる。それでいてすべて布製である利点を生かして、室内から外の気配を知ることができる。まさにシェードとブラインド機能のいいとこどりである。

ブラインドは水平から垂直へ
素材は金属から布やレースへ
その先にシェードが誕生する。



アルミニウム製ブラインドのフレクスラムが生まれ、1980年代にはハニカム形状によるデュエット・シリーズのシェードを完成させた。1990年代を代表するシリーズにはシルエットがあり、上から3枚目までの写真がそれだ。4枚目の写真は1996年に発表されたルミネット。レース生地で優しく光を透過させると同時に外部の視線は遮断できるというもの。

戦後はぞくぞくと兵士が帰還し、マイホームを構えることになる。そこにソネンバーグのハンターダグラスがするべき仕事があった。水平に上へ折りたたまれるのが常識だったブラインドは、縦へと方向を変えた。ハンターダグラスでは1986年にパーチカルブラ



アルミニウムの羽からブラインドの素材は布帛になり、表情豊かなレースへと広がっている。同時に名前も光を遮断するブラインドからシェードになった。



ハンターダグラスは現在、ヨーロッパ、北米、南米、アジア、オーストラリアで商品展開する。上の写真は海に突き出すロッテルダムの上の工場。



天井から床まで、従来なら壁になるはずの一面にガラスをはめた家。明るく開放的な空間が近未来のリビングルームとして万国博で注目された。背後では第2次大戦の足音が高まりつつある時代のことだ。ハンターダグラスを興すことになるヘンリー・ソネンバーグが、ヨーロッパからアメリカへ渡ってきた時代と一致する。戦後はぞくぞくと兵士が帰還し、マイホームを構えることになる。そこにソネンバーグのハンターダグラスがするべき仕事があった。水平に上へ折りたたまれるのが常識だったブラインドは、縦へと方向を変えた。ハンターダグラスでは1986年にパーチカルブラ



「ガラスの家」と題された未来の家が1939-40年のニューヨーク万国博覧会で注目されてからは大きな窓が志向される。ハンターダグラスはその時代のなかへ現れ、ベネシアンブラインドにするべき仕事場が広がっていた。



水平に上げ下げするか、垂直にスライドさせるか。あるいは上部か下部の一部だけを
開け閉めするのか。ブラインドとシェードは自由度を拡大させてきた。「光はすべてを
変える力がある」のハンターダグラスの言葉どおり空間は重厚にも軽快にもなる。

ショールームではブラインドやシェードの操作性はもちろんのこと、素材ごとの光の透過性などを身体全体で体験できる。◎日本ハンター・ダグラス ショールーム
東京都品川区東五反田5-25-19 東京デザインセンター5F
月曜～金曜 10:00～18:00
土曜 11:00～17:00 (定休日:日祝)
☎03-5762-4826
<http://wf.hunterdouglas.asia/jp/jp/>

HunterDouglas

「陰影礼賛」の伝統がある日本にふさわしい光を表現
できるブラインドとシェードは、和風空間のおもむ
きを深める。同時に使い勝手は合理的で便利だ。

ハンターダグラスの製
品は、第2次大戦直後の
アメリカで機能する場所
を見つけた。それは戦後
のアメリカンファミリー
が望むモダンなリビング
であり、明るいオフィス
空間だった。クリーンで
機能的なイメージを現出
することに、羽をコンパ
クトに収納できるベネシ
ャンブラインドのスマー
トさがぴったりだった。
やがて金属のブラインド
では満たされない部分を
感じたその矢先に、光を
積極的に生かせるシェー
ドが送り出された。デュ
エット・シリーズを先頭
にシルエット、アプロー
ズ、ライトライン、ヴィ
イニエット、プリリアン

シェードに使われている布帛は色と素材
に真っ先に目が向くが、UVカット効果な
ど目に見えない機能も備わっている。

ス、リメンブランクス、ル
ミネットと1980年代
から90年代は新作のシェ
ードが次々と発表され
ている。同時にバツテリ
ー駆動で離れた場所から
シェードの上げ下げがで
きる装置や、光の加減を
する羽の操作を便利にす
る機能も開発された。21

1985年発表のデュエットから採用され
たハニカム構造はシェードの進化を開き、
その開発は現在も継続されている。

世紀に入ってからでは、ナ
チュラル志向に対応して
ウッドシェードなど自然
素材を採用したシリーズ
がリリースされている。
室内を満たす光にかか
わる点では、シェードや
ブラインドの大切さは照
明器具とくらべてもひけ
を取らない。その照明器

優れた空間演出力を備えた
ブラインドとシェードそのものに
スポットライトがあたる。

ではもったいない。空間
のクオリティは、われわ
れの心に働きかけてくる
ゆったりと過ごしたいの
か、集中して仕事をし、考
えを深めたいのか。機能
は選べるのだ。その
デザインや仕様は、まち
がいに時代を反映して
いる。われわれが何に憧
れて、何を手にしてきた
のかを伝えてくれる。
現在、ハンターダグ
ラスは窓まわり製品と内外
装材を世界100カ国以
上で製造販売している。
初代のヘンリー・ソネン
バーグがグループの礎を
つくり、現在は2代目の
ラルフ・ソネンバーグに
引き継がれている。世界
企業でありながら人が快
適に過ごす空間づくりに
携わるという商品の性格
から、ハンターダグラス
のモノづくりは現場主義
を選択している。文化に
似合ったふさわしいモノ
づくりをするということ
であり、工場をマーケッ
トに近い場所に置いてい
るのはそのためだ。日本
であれば、和風の空間に
マッチするシェードが用
意されており、下から上
へロールアップできるタ
イプなどは、まるで雪見
障子を思わせる。それで
いてプライバシーを守る
現代の要求は満たし、合
理的機能を備えた使い勝
手になっている。